



# バイクレスキュー隊の必要性は

藤原 万起子 (市民ネット)

動画は  
こちらから



南海トラフ巨大地震など大規模災害時、広域的な停電や通信インフラの寸断が想定される。発災直後の数時間から数日間に、正確な情報を収集し、災害対策本部へ集約できるかは重要な課題である。

を防ぐため、バイクレスキューの機動力や独立した無線通信の活用が有効である。危機管理部と直接連携体制を構築し、情報共有する仕組みの制度化、また行政との正式な協定締結について伺う。

◎ 本市の課題として、災害発生時、急激な状況変化への体制移行や人員確保、長期化による人員配置などについて課題があるとの答弁があったが、こうした課題に対し、現在の体制で十分に対応可能か伺う。

◎ 機能が麻痺した状況下での機動性・迅速性の有用性が認められており、救援活動支援や情報収集、物資搬送などが期待される。今後は関係者と連携方法や役割分担を整理し、協定締結に向けて検討を進める。

◎ 災害時は職員安否メールで人員確保に努めるが、大規模災害では不足が懸念されるため、広域受援計画に基づき自治体からの応援受入体制を整備している。能登半島地震の教訓を踏まえ、トラック協会や地元企業と連携し、物資搬送の混乱防止に向けた訓練を実施した。今後も受援体制の強化を進める。

◎ 他に「職員の離職防止と市民サービス維持に向けた負担軽減・適正配置の取組」について質問しました。

◎ 災害時の「情報の空白」



バイクレスキュー：イメージ



# 中電の不正行為をどう考えるか

奥野 寿夫 (日本共産党)

動画は  
こちらから



浜岡原子力発電所の再稼働適合性審査における中部電力の不正行為について質問した。

◎ 中部電力は原子力事業者としての適格性を欠いており、申請を取り下げ、浜岡原発の再稼働を断念すべきと思うが、市長の考えを伺う。

◎ 今回の事案は、中部電力が積み上げてきた地域への信頼関係を根幹から揺るがすものである。さらに、組織に対する信用も地に落ち、極めて遺憾である。原子力規制委員会から中部電力に対して報告徴収命令を発出しており、原子力規制検査を実施し、事実確認を行っている。中部電力は第三者委員会を立ち上げ、事実関係の検証や原因の調査などが実施されている。こうした状況のなか、私が再稼働に対して見解を述べる段階ではない。

◎ 使用済み核燃料が保管されている燃料プールのある原子炉建屋の耐震性は大丈夫か伺う。

◎ 「浜岡原発は、建設当初から余裕を持たせた耐震設計を実施するとともに、その後も耐震性を高める工事を実施し、常に最新の知見を反映し、安全の向上に取り組んでおり、構造上問題はなく、燃料プールに保管されている使用済燃料は約15年経過しており、十分に冷却されていることや平常時には複数の常設設備によって水位を維持し、大規模な地震など、万が一常設設備が使用できなくなった場合にも可搬式動力ポンプを使って注水することで水位の維持ができる」と公表されている。

他に「リニア中央新幹線工事による水問題」について質問しました。

